



No. 149 2023. 1

(株) よかネット

NETWORK

熊本地震から6年～復興の様子を巡る旅～ .....2  
 地域のシュリンク、その中で持続可能性や観光事業を考える .....5  
 ひのさと48 地域に寄り添うコミュニティカフェ .....10  
 阿蘇を公共交通機関のみで楽しむ .....14

近況

見えないモノが大事 .....16  
 俳句を楽しむ .....17  
 地域資源を活かし域外から稼ぐご支援を .....17  
 健康が一番 .....18  
 オタ活ばちばち復活してます .....18  
 可視化のススメ .....19  
 新しい年のささやかな目標 .....20  
 もっとアクティブな1年に .....21  
 趣味の幅も視点の幅も広げる .....22

表紙解説 .....22

●「お一人様」向けの新しいサービスはどうなっていくのか？

2020年の国勢調査によると、一般世帯数5,570万世帯のうち単身世帯は2,151万世帯と38%を占めており、10世帯中4世帯が一人暮らしである。

2005年、流行語大賞に「おひとりさま」がノミネートされ、それを契機に「お一人様」の認知度が上がったと思われる。そこで、2005年から現在までのGoogle検索における「お一人様」の検索の人気度の動向をGoogle Trendsでしてみた。

「お一人様」は、岩下久美子氏の著書「おひとりさま」で「個を確立した女性」と定義したことが始まりとされている。その後、高齢化により高齢者の「孤独」というマイナスイメージが先行するようになった。しかし、近年では、お一人様向けの飲食店やグルメアプリなど、若い世代向けの飲食サービスが広がり始め、一人の時間を豊かに過ごすといったプラスイメージに変化してきているようだ。

単身世帯が増加する中、「お一人様」向けのサービスはどのような広がりを見せるのだろうか。

◆「お一人様」の検索人気度の動向と関連トピック



\*検索の人気度：期間内で検索数の最も多い時期（2018年10月）を100とした時の検索割合を示したもの。

## 熊本地震から6年 ～復興の様子を巡る旅～

山崎 裕行

平成28年4月14日を前震、16日を本震とする熊本地震から、早6年が過ぎた。ネットワーク会社である(株)地域計画建築研究所(略称:アルパック)が、国土交通省住宅局の「熊本地震における住まい・集落等の復旧に係る検討業務(東部)」及び、熊本県の「平成29年度立野地区地域再生支援業務」、南阿蘇村の「南阿蘇村小規模住宅地区等改良事業基礎調査」を受託したことから、その一部業務を当社が担い、震災直後から現地を訪ねていた。平成28年度と29年度の2カ年にわたって通い、県、村、村民の皆さんと議論を重ねて、住まいや集落の再建のための事業計画づくりを行ったが、それらが今、どのように進んでいるのか(形となっているのか)を確認するために、今回、復興業務でお世話になった熊本県立大学の柴田先生、アルパックOGの山道さんの協力のもと、現地を巡る視察ツアーが企画(11月18日～20日)されたので、当時業務に携わったメンバーとともに、参加してきた。

ツアーでは、南阿蘇村に加えて益城町と西原村も対象とした。益城町は、当社が令和元年度と令和3年度に中心市街地活性化に関係する業務を受託、西原村は国交省の業務の調査対象であった経緯があった。

### ●着々と整備が進む益城町中心部

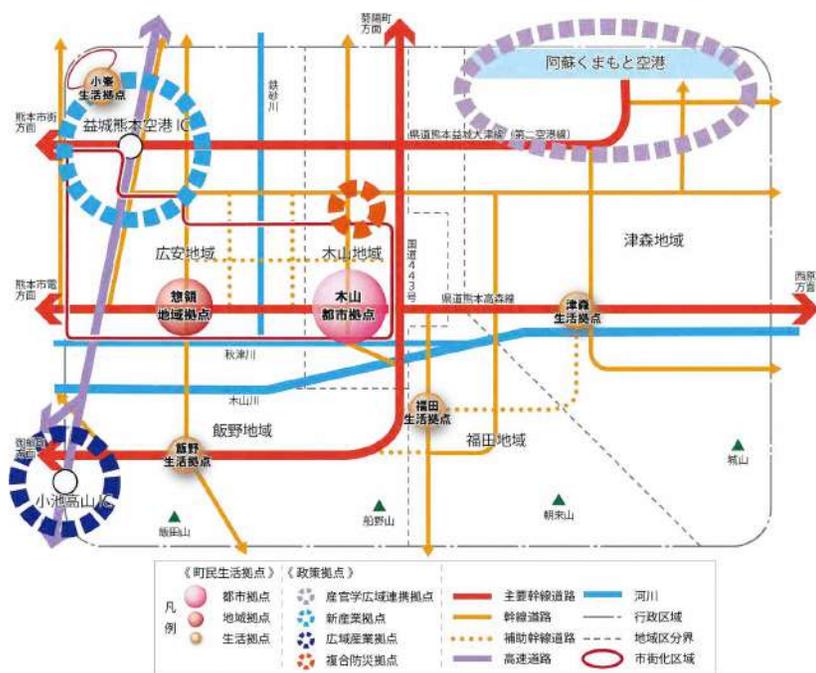
1日目は阿蘇くまもと空港で関西からやって来るアルパックのメンバーと合流し、益城町を回った。空港も2023年の完成を目指して建替え工事中であり、以前とは全く異なっていて驚いた。

まずは4車線化や区画整理事業が進む中心部の木山地区周辺を柴田先生に解説を頂きながら見て回った。木山地区には行政や商業施設・住宅地等が集積しており、町の復興計画等でも都市拠点とし

て位置づけられている。

4車線化事業は、益城町中心部と熊本市内とを結ぶ県道熊本高森線で県整備事業により進められている。平成29年2月に都市計画決定された後に、3月には事業着手、10月からは用地交渉に着手し、令和2年3月には一部歩道の供用が開始されている。総延長で3,792mに及び、これまで幅員約10mであったのが、拡幅後は、歩道も含めて約27mとなる。3年前に現地を歩き回った時は、まだまだ拡幅を実感することは出来なかったが、今回は沿道の用地買収が色々な所で進んでおり拡幅整備後の道路のイメージを持つことができた。町役場の方にお話を伺うと、「以前から交通量が多いところであったが、歩道が十分ではなかったので、この事業により安全で快適なまちが整備されることになる」とのことであった。

4車線化事業とあわせて進められているのが土地区画整理事業である。土地区画整理事業は、快適で災害に強いまちづくりの実現に向け、道路や公園等、公共施設の整備改善と宅地の利用促進を図ることを目的としており、事業面積約28.3ha



図：益城町の概略図(出典：益城町都市計画マスタープラン)



土地区画整理事業による市街化予想図案  
出典：益城中央被災市街地復興土地区画整理事業  
概要説明資料



宅地は整備されたが更地が広がる

となっている。平成 30 年 3 月に都市計画決定したのちに、10 月に事業着手し、令和 4 年 4 月の第 8 回仮換地指定は約 7 割となっている。実際にまちを歩くと、至る所で道路の拡幅整備が進んでおり、幾つかの建物等も建て替わっていた。とはいえ、まだ空き地のままのところも多く、まだまだこれからという印象である。ちょうど歩いていると、家を曳いているところがあり、話を聞くと、区画整理事業に伴い曳家をしているとのことだった。

#### ●拠点の 1 つが完成

益城町の中で、木山地区と並んでもう 11 の町の玄関口、地域拠点として位置付けられているのが惣領地区である。この惣領地区においてにぎわい創出を図ることを目的に昨年 5 月に誕生したのが「BOXPARK マシキラリ」である。惣領交差点の北側、惣領神社の前に位置しており、様々な色のコンテナハウスを組み合わせた 2 階建ての複合施設となっている。

元々は JA の建物があったそうだが、震災によ



拡幅整備が進む横町線（交差点から南側）  
（上：3 年前、下：今回）

り空き地となった所へ建てられた。まだ全て埋まっているわけではないものの、ハンバーガーショップ、パン屋さんや、スイーツの店などがあり、金曜日のお昼時に 10 代後半から 20 代前半だろうか、若い人がたくさん訪れていた。3 年前を思い出すと、まちなかに、このような人が集まれる場が無かったので、皆さん待ち望んでいたのだろうと思う。お店が埋まってくことで、更なるにぎわいが期待される。

#### ●人の戻りが郊外部の課題

続いて訪れたのが、郊外に位置する津森地域である。こちらも震災により地盤の滑動崩落により被害を受けたところが多くあり、国の事業を活用して集落再生が進められている。実際に、事業を活用した地区を訪ねると、宅地がきれいに復旧していた。しかし、家が再建されているところは限られ、更地が広がっていた。再建を果たした住宅と更地とのギャップを目の前にして何とも言えない気持ちとなった。

暮らす人がいると、自然と木を植えたり、花を



高野台から立野を眺める（土砂崩れの跡がくっきり見える）

育てたり、あるいは日常生活で使う道具をおいたりということが起こり、それを見て、「ああ、人が暮らしているんだな」という安心感を覚える。生活している様子が見えるのと、見えないのではこうも感じ方が違うのだということに気づかされた。

益城町の人口をみると、震災前までは、熊本市のベッドタウンとして年々増加しており、平成28年3月末の人口は約34,500人であったが、震災後の平成29年3月末には約33,000人と、約1,500人減少となった。しかし、熊本市に近いという立地の良さもあって、令和2年からは人口回復傾向にあり令和4年9月末では約33,600人となっている。全国的に少子高齢化に伴う人口減少が進む中で、人口が増加している町なのだ。ただし、人口が戻っているのは市街地であり、町役場の方も、「今後、この郊外部にどのように移住・定住を促すかは課題である」とのことだった。

### ●災害公営住宅や駅の整備が進む立野

2日目は南阿蘇村と西原村を訪ねた。

南阿蘇村も熊本地震で甚大な被害があった地域であり、阿蘇大橋の崩落や、国道57号に向かって大規模に土砂が流れた立野地区の地すべりの様子は、多くの方がご存知のことだと思う。業務実施時、南阿蘇村では立野地区を含めて7つの地区に入り、それぞれの地域住民の皆さんと、村、県の方と意見を交わしながら集落再生に向けた事業計画の検討を行った。立野は検討区域として最大であり、考慮すること、検討することも多々あって、先輩方が常に知恵を絞って対応していたことを覚えている。



南阿蘇鉄道の全線開通まで「たぶん、あと9カ月」

あいにくの雨で車窓からとなったが、久しぶりに立野地区を訪ねると、住宅が再建された様子や、道路の拡幅等が進んでいるところもあったが、空き地が目立った。立野地区の様子を伝える新聞記事（2021年4月15日熊本日日新聞）によれば、地震前は360世帯が暮らしていたが、2021年3月末現在では200世帯まで減少している。このような中、立野地域の若者有志で「立野わかもん会」が設立され、フットパスのモニターツアーなどを行うことで交流人口や関係人口の拡大を目指しているそうだ。

今、立野地区では、新しい阿蘇大橋が開通し、豊肥線も全線で運行再開、災害公営住宅も整備された。立野と高森を結ぶ南阿蘇鉄道は、現在は運行区間が限られているものの、全線開通に向けて整備が進んでおり、駅前のお饅頭屋さんには、「全線開通までたぶんあと9ヶ月」という看板があった。色々なものが、徐々にではあるが元に戻ってきている。そうすると、また人の流れも変わってくるだろうし、戻ってくる方も増えてくるのではないかと。

### ●集落の再建とは

天気と時間の関係もあり業務で関わった南阿蘇村の全ての地区を回ることは出来なかったが、そのうちの幾つかは西原村と併せて見る事ができた。

計画通りに進んでいる地区もあれば、そうではない地区もある。計画通りに事業が進んでいても、当初想定していたように住民の方が戻っていないところもある。仕事の関係、子育ての関係、買い物や通院など生活のしやすさ、次の災害への心配・

備えなど、戻れない要因は様々である。

そもそも、日本全体で少子高齢化が進み、ごく一部の地域を除いてはどこも人口減少からは逃れられない状況にある。その中で、集落の再建とは、以前より安全・安心して暮らすことが出来る環境を整えることであり、それにより多くの方の元の場所で生活したいという想いを後押しすることだと思ふ。それに加えて今回思ったことは、暮らし

方を提案することで、元々住んでいた人だけでなく、移り住みたい人を発掘することも考える必要があるということだ。

当時の私自身を振り返ると、後者の視点が無かったなと思う。そして、「地域の魅力」を見出し、活かし、伝える力がまだまだ足りていないと痛感したツアーであった。

(やまさき ひろゆき)

## 地域のシュリンク、その中で持続可能性や観光事業を考える

立教大学名誉教授 村上 和夫

### ●はじめに

人口減少、それは国全体の問題なのだが、かつての公害問題や過疎過密の時のように特定の自治体の問題が国全体に影響を及ぼしている訳ではない。むしろ、ほぼ全ての自治体でじわじわと進行している問題なのである。全国に市町村は1,741あるが、2020年10月1日から2022年10月1日の間に人口が増加したのは、その10.5%の183自治体しか無く、残る約90%にあたる1,556自治体（福島県大熊町と浪江町を除く）は人口が減少しており、それらには全国に20ある政令指定都市のうち13の市も含まれている。人口の減少は、世界的には先進諸国に見られる現象でもあり、それがすなわち地域の衰退や指導力の低下を必ずしも意味するわけでは無い。ただ、「人口減少」→「労働資源の減少」→「生産力の衰退」→「経済力の伸び悩み」→「生活の貧困化の可能性増加」という近代的連鎖が起これば、人口減少が地域の衰退に繋がる可能性は否定できない。そして、だから始まったのが地域創生を促す政策ではあるが、人口減少そのものは止まっていない。

### ●人口が減少しても衰えない生産力、創造力

他方で、先進国を中心に社会全体において、急速にデジタル化が進展しており、業務や生活のスマート化はもちろん、文化の理解や創造そして産業が生み出すサービス全体のあり方さらには美意識までも変化しつつある。

人口の減少がもたらす社会の視覚的な変化、例えば就業者の減少や労働資源の高齢化、空き家の増加や商店街の衰退は寂しさを伴うかもしれな

い。それは望郷感を刺激するものでもある。しかし、第一次産業におけるIT化や経営方法の革新は、作物等の品質を安定させ生産額は維持している地域があり、中には製品販路の国際化も進んでいるところもある。九州にそれらの事例は少なくない。そして、SNSを通じたネットワークやDXなどによる人々の働き方の変化により、広い地域からやってくる人々のエンゲージメントが生まれ、新しいビジネスリーダーの活躍の機会が創り出されてきた。その輝ける断片を九州各地に多く発見できる。

地域創生の掛け声に乗る彼らの課題は、その出発点において前述の「近代的連鎖の克服」（人口減少の克服）にあったのだろう。多分、当事者たちは、連鎖の克服を必要と考え人口増加を目指して策を練る意義を見出したのかも知れない。しかし、先の統計（2020/2022年）をみると、述べたように人口が増加した自治体は183でしか無い。さらにその約25.8%の47自治体が九州・沖縄であり、またその約4割の19自治体は沖縄県で、約3割の14自治体が福岡県であった。

同時期、沖縄県は唯一人口の増えた都道府県であり、福岡県は首都圏に次いで人口減少率が小さく、政令指定都市で人口増加率の大きい福岡市を擁して、九州の社会移動の集積地となっているのである。そうなると、地域創成策のほとんどは、都市の吸引力やその他の要因に優るものは無かったとも窺うことができよう。むしろ策の目指すところは、実は人口増とは異なっていたのかも知れないとさえ感じてしまう。

●人口は減少するが新しい価値を創り出す社会

仮に、①人口減少を食い止めつつあるいは伸ばしつつ（人口問題解決）、②経済力あるいは③生活内容に新しい文化を志向する伸び（イノベーションや文化創造）を創り出す方向が結びつくと仮定すると、②の多くに①を実現しない阻害要因が含まれるか、そもそもの方向性について策定者が十分に理解できていなかったことになる。

そこに、人口が減少しても新しい方向性を見つけている地域と地方町村があり、都市もシュリンクに即した策（例えば「創造的縮合政策」）を立案実行しているような地域がある。

例えば、

- ①農業法人などの効率の良い経営主体が経営を引き継ぎ、高齢者は徐々に従来の農林漁業等の個人経営から退き、老後の静かな営みへと生活の軸を移動している地域。（産業における効率化の推進）
- ②製造業・商業・宿泊業などで、高齢化した家族経営の自営業を次世代家族あるいは移住者が承継し“手作り”（クラフツマンシップ）などを活かし地域ビジネスを再構築する地域。（地域ビジネスの承継とイノベーション）
- ③時には②をECと連携させて販路拡大を行う事業者が活動する地域。（ECの推進）
- ④開拓した需要に合う他の地域の企業製品の販売を受託するビジネスを興したり、インターネットを利用して他の地域の観光案内や情報提供したり、遠隔操作で施設管理を行う人々が活躍する

表1：九州・沖縄地区の「休廃業・解散」動向調査

業種 / 集計年	前年比「増加」となる業種		
	2020年	2021年	前年比
		(件)	(%)
旅館	10	26	+160.0
機械器具設置工事業	6	15	+150.0
その他の建築材料卸売業	7	17	+142.9
労働者派遣業	6	13	+116.7
日本料理店	6	13	+116.7
機械設計業	7	12	+71.4
米麦卸売業	6	10	+66.7
損害保険代理業	15	24	+60.0
内装工事業	36	57	+58.3
建物売買業	9	14	+55.6
事業協同組合（他に分類されないもの）	11	17	+54.5
土工・コンクリート工事業	14	21	+50.0
型枠大工工事業	8	12	+50.0
他に分類されない専門サービス業	16	22	+37.5
経営コンサルタント業	25	34	+36.0

る地域。（デジタル化社会への対応を推進）

これらビジネスは、いずれも形式上人口増を目的とするとしても、その機能は十分に持たず、働こうとする労働力が他の地域から来訪すれば雇用される程度なのである。これらのビジネスの変化がそれまでの経済効果を維持し、時には就労者の減少があっても経済効果は継続している事例を見ることは少なくない。人口は減少するが、地域は衰退しない流れを生むのである。

さらに、古民家の改修などで移住する家族もあって、地域の生活環境の新しい活用法に結びつける事例を見ることもある。そして、減少する人口を補うには十分でないことが多い。

それらの結果、このような地域では、人口は増えにくくむしろ減少は継続していくのである。

●観光地における人口の高齢化と減少

観光地の衰退、1900年代の最後の頃、旅行商品に市場離れが起こり、温泉地における宿泊業の倒産が問題となった時代があった。旅程に選択の自由が生まれ、OTA利用が普及し、温泉旅館の画一的なサービスが改善され、さらに観光地づくりに色々な人が加わるようにもなって、リゾートやアートの観光地が造られ、街歩きも観光者により開発されインターネットに上げられるようになり、観光地の革新に観光事業者を越えて広く社会が参加するようになった。

しかし、バブル経済が終わった1990年代からの時代、観光地はどこも苦しくその後の人口の高齢化、そして人口減少の波を避けることは難しい

業種 / 集計年	前年比「減少」となる業種		
	2020年	2021年	前年比
		(件)	(%)
酒小売業	19	10	△ 47.4
木材・竹材卸売業	18	10	△ 44.4
ガソリンスタンド	27	15	△ 44.4
有床診療所	20	12	△ 40.0
野菜卸売業	19	12	△ 36.8
冷暖房設備工事業	15	10	△ 33.3
建設用石材・窯業製品卸売業（セメントを除く）	15	10	△ 33.3
電気配線工事業	47	32	△ 31.9
土地売買業	16	11	△ 31.3
中古自動車小売業	23	16	△ 30.4
コンビニエンスストア	17	12	△ 29.4
家庭用電気機械器具小売業	31	22	△ 29.0
給排水・衛生設備工事業	29	21	△ 27.6
他に分類されない飲食品小売業	15	11	△ 26.7
老人福祉事業	45	33	△ 26.7

こととなり現在に至っている。

九州において、すでに「よかネット# 144」などに述べたように、成長する企業もありながら、多くの観光地の自治体で、従属人口指数は当該の県全体を上まわっている。今でも観光地は経済効果を生み出しており、その可能性は残されている。ただ、やはり先の連鎖を食い止める力は次第に弱くなっている。労働の省力化とDXがこれからの方向であることに違いはない。

### ●労働資源の不足、観光産業の将来不安

コロナ禍に企業倒産が多く発生した。帝国データバンクの資料 ([https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s220201\\_80.pdf](https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s220201_80.pdf)) によれば、「建設業」「サービス業」「小売業」での倒産等が多い。さらに、表1に示すように「旅館」の倒産も依然として多い。表1のデータは2012年度のものであるが、2022年(集計は2023年初め)もその傾向は継続しているようである。

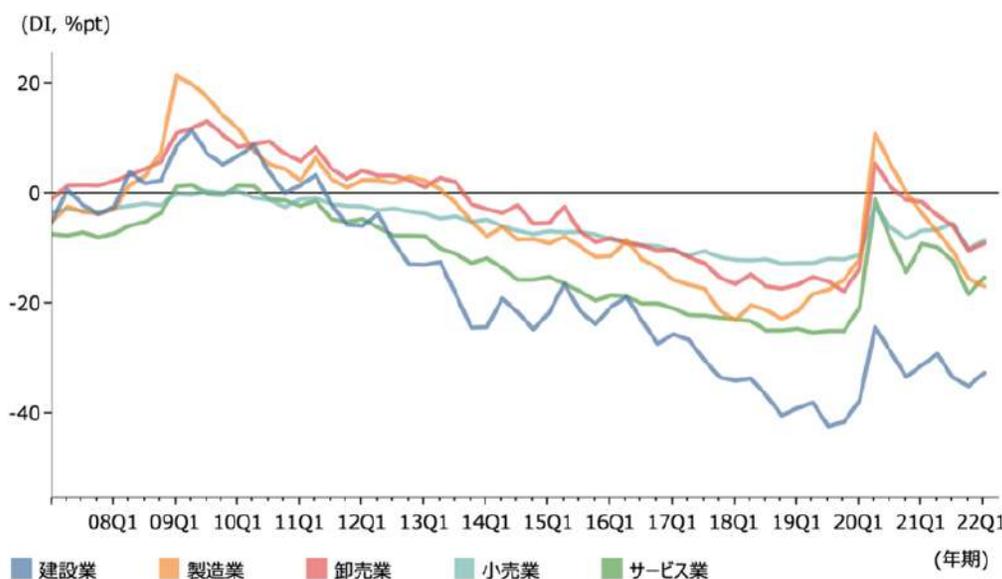
さらに、コロナ禍で業績が悪化した多くの中小企業を持続化給付金などの政府の支援策や所謂“ゼロゼロ融資”が資金繰りを下支えしたものの、収益力が戻らず、返済原資を確保できない「諦め」による倒産が増えている可能性があると同資料は指摘している。同資料はまた、廃業した企業の代表者平均年齢が69.5歳と高齢であり、『60歳以上』

の構成比は83.1%で、「70代」「80歳以上」も前年より上回っているとしている。つまり九州は、後継者がいないことで組織代表の高齢化が進み、先行きを悲観し財務内容に余力のある企業が先んじて休廃業を選択する割合が高い可能性があるともしている。

先行き不安の原因に後継者が居ないのもあるが、さらに最近の人手不足がある。そもそもコロナ禍の一時を除いて、以前から人手不足は深刻であった(図1参照)。再びその急速に不足状態に戻りつつある。必然的に生産年齢人口の大都市集中を加速することになるのである。

とくに、「宿泊・飲食サービス業」「生活関連サービス・娯楽業」においては、従業員規模の小さな企業よりもある程度の規模の企業において人手不足は深刻な様子を窺うことができる。図2・図3・表2は全国の傾向であるが、九州においてもこの傾向は見られ、さらに深刻化しているはずである。結局このことは正社員よりも非正社員に依存し離職率が相対的に高いこれらの業界では、高齢な経営者が、対面的な売上機会がなくなることで事業の先行きを不安視することは当然のことであろう。

観光産業を地域創成の切り札にしようとする事が、労働資源の移動との関連で、人口減少地域に



資料：中小企業庁・(独) 中小企業基盤整備機構「中小企業景況調査」

(注) 従業員数過不足数DIとは、従業員の今期の状況について、「過剰」と答えた企業の割合(%)から、「不足」と答えた企業の割合(%)を引いたもの。

図1：業種別にみた従業員数過不足のDIの推移(『令和3年度の中小企業の動向』)

あつては、安易な考えとなり得ることを示唆しているのである。

さらに、観光産業ばかりではないが、いくつかの産業でコロナ禍の支援金の不正取得も表面化したことは記憶に新しい。その結果、組織や個人の規律改善も求められ、同時に先の連鎖を食い止める労働力の確保をしようとする時の当該産業への社会的懸念も生まれることとなる。時代に即した民主主義的で透明性のある地域運営の方法が求められているのである。

●地域や組織のブランド化、専門職人材、外国人人材の雇用

多くの記事、論文、報告書などに、賃金や雇用条件の改善が指摘されると同時に、労働者を雇用する企業の能力の向上の必要性が指摘されている。これらの報告等は、さらに企業が立地する地域を越えたブランド力さらには国際的な販売力や

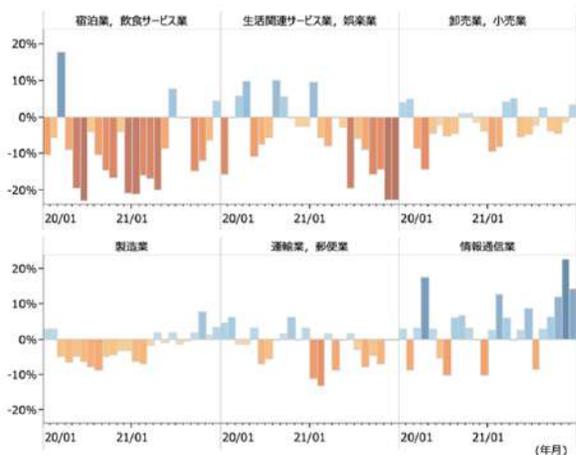
評価の獲得が求められることがある。農林漁業や製造業あるいは一部の運輸業や流通業など、さらにインターネットを利用したデジタルサービスなどでそれが可能といえよう。

そのためには、労働を高齢者や外国人（図4参照）など、誰もが働き・組織をマネジメントできるように標準化すると同時に労働（主体性）と収入（対価）の関係をお互いオープンにしておくことが大切である。他の地域とのその共通性も高める必要がある。つまり正社員ばかりでなく非正社員においても専門職として働く仕組みを作り上げることが必要となる。例として“道の駅”などのシステムがある。そうすることで、働く人が、当該組織や地域で働く“価値”（働く組織や地域のブランド力）を見出すことができるようになるからである。

実際は、経営の困難さを伴う企業の多くは地元

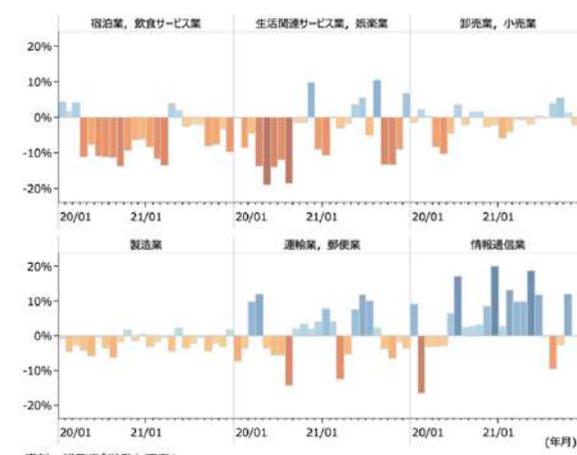
表2：人手不足の割合 2022年9月（2022/10/21 帝国データバンク）

正社員 (%)				非正社員 (%)				
		2020年9月	2021年9月	2022年9月		2020年9月	2021年9月	2022年9月
1	情報サービス	46.0	↑ 59.3	↑ 71.3	1	飲食店	41.8	↑ 44.1
2	人材派遣・紹介	27.5	↑ 43.1	↑ 65.0	2	旅館・ホテル	25.0	↓ 13.6
3	メンテナンス・警備・検査	50.0	↑ 58.3	↑ 64.6	3	各種商品小売	55.6	↓ 36.2
4	建設	56.2	↑ 60.3	↑ 64.4	4	娯楽サービス	31.7	↑ 31.9
5	旅館・ホテル	27.6	↑ 28.3	↑ 62.5	5	人材派遣・紹介	30.5	↑ 48.4
6	自動車・同部品小売	51.1	↑ 55.8	↑ 59.6	6	飲食料品小売	45.3	↑ 46.3
7	運輸・倉庫	38.7	↑ 49.0	↑ 58.2	7	メンテナンス・警備・検査	42.9	↑ 45.0
8	広告関連	26.5	↑ 37.4	↑ 58.1	8	農・林・水産	37.3	↑ 40.0
9	金融	36.8	↑ 40.5	↑ 57.6	9	教育サービス	32.0	↑ 52.8
10	農・林・水産	61.5	↓ 53.8	↑ 57.3	10	専門商品小売	32.8	↓ 27.5



資料：総務省「労働力調査」  
 (注) 2015年国勢調査結果に基づく推計人口をベンチマークとして選及または補正した時系列接続用数値を用いている。

図2：業種別に見た、雇用者数の前年同月比の推移  
 (従業員規模 30～99人)  
 (『令和3年度の中小企業の動向』)



資料：総務省「労働力調査」  
 (注) 2015年国勢調査結果に基づく推計人口をベンチマークとして選及または補正した時系列接続用数値を用いている。

図3：業種別に見た、雇用者数の前年同月比の推移  
 (従業員規模 1～29人)  
 (『令和3年度の中小企業の動向』)

市場でのビジネス、あるいは非常に小規模な組織で、労働がシステム化されていないことが多い。これは地方の市町村ばかりのことではない。都市部や大都市でも一部の企業を除いて同様である。その場合は、地元主導が行き過ぎ、ブランド力を創り上げ、地域で活躍しようとする人のリーダーシップや外から移住してくる人々を、伝統的な規範においてエンゲイジメントから疎外する可能性を生んでしまう。農山漁村体験の教育旅行において地元出身者が組織を作り伝統的な方法を教授することに価値を見いだしている地域がある。“地元主導の体験型教育旅行”などと称されるが、社会の流れから乖離していることに気付けない主体性構築上の自己矛盾を孕んでいることが問題なのである。

政府やコンサルタントなどの報告書が述べる事柄の重要性は誰もが認めるものの、それを現実化するのには難しいことが多い。

### ●ライフシフトする人々による地域運営

労働資源が少なくなることで、地域の運営あるいは地域内のビジネスを維持するための仕事を継続することが難しくなることがある。さらにその状態のままで、新しいビジネスや社会活動を展開する必要が出てくることもある。

その場合、企業や公的な性格を持つ活動の運営を、組織を単体とする活動として考えるか、地域を軸に共同で運営する方法を考えるか選択が必要となる。

規模の大きな小売店や娯楽施設の場合、民間の運営企業は労働資源も域外から持ち込むことが多い。これと比較し、人口減少が続く現在の農山漁村や集落では、農家民宿の新規運営、道の駅などの直売施設そして温泉施設の運営や福祉施設の開設、今はほとんどないが集落の住民などが株主となったスキー場の運営や体験型教育旅行施設などの場合、すでに述べたような理由から、規模の新しい労働資源を得るのは難しい事が多い。そこに、民主主義的、目的合理的、意思決定がオープンな、働く場所としてブランド力を持つ組織を形成して行くことが、地域創成の大きな課題なのである。

筆者の経験では、農山村では1990年代から他の業種や業態との年間労働時間の配分が考えられ

てきていた、そのような地域での人々の経験を活用することは一つの解決法かもしれないと考えられる。

その例として、農村観光の経営計画（グリーンツーリズム）の作成について述べたい。地域としても個々の農家においても、農業や農家生活との関係に無理が生じないような通常の農業と農家民宿経営の双方を一体的に営む経営計画が作られ、農家（農業者等の集団）が労働資源とスキルの最適解を模索し農家経営を行ったことである。

そもそも農家経営の財務は農家女性の仕事であることが多く、1990年代当時、農業改良普及所等の経営指導員が農家民宿の経営を希望する女性農業者を集め（グリーンツーリズム研究会などと称された）経営計画の作成や共同事業を個々の農家の持つ資源を活かすかたち（農業あるいは農家民宿単体で生活することは無く、他の兼業も含め農家経営が最適化するよう計画）で企画した。

やがて、2000年代に入り、高齢化が急速に進むとデイサービスの送迎など様々な地域活動の分担が地域の人々に必須となっていく、そのたびに女性農業者達は、農家民宿を導入した時の考えを活かして時間の調整を行い、地域運営に参加し業務を担っていく事になる。そしてそれは、今や全国で実施されるようになった。

女性農業者の人たちは、それぞれに業務に必要な専門職としての資格を取得し、やがて皆が複数の資格を持ち、1日で多くの仕事を次々とこなし、働くようになった。

このような働き方は、実際は多少の働き過ぎを伴う傾向にあるが、ようやく近年都市部でも話題になり実施されるようになってきた、人生を通じて複数の労働に参加する「ライフシフト」労働そのものであり、彼らはそれを先進的に創り出し、実施し発展させてきた経緯がある。

### ●シナリオプランニングの重要性

“人口の高齢化と減少”、“労働資源の縮減”、“都市への労働資源の移転集中”は、地方の市町村の生活への負担を増加させてきた。しかし、多くの市町村では近年、地域の産業の生産性は向上してきている。そこに都市の組織運営がどのように役立つか。理論は役立つが働く現場や郊外生活

は、むしろ農山漁村の地域運営から学こと多いかもしれない。

産業におけるイノベーションと、非効率で将来の見込めない部門の縮小や停止、そして地域労働資源の“ライフシフト”への移行はなぜかあまり話題とならないが、社会課題が農山漁村から生まれその解決に向けた先進性がそこに生まれていることを示している。

かつて「共同体」と呼んでいた旧村落運営の行動が形態を残しながら、背景にある考え方が大きく変化してきた。ことに義務しかない昔の共同体は、農業等の近代化の過程で大きく変化した。そして、その変化した組織活動がまた新しく生まれ変わり、効率の良い集団での効率的な運営の形態を生んでいる。こう言う流れは「再帰的近代化」と呼ばれる。行動は過去（近代）に似ているが、それを営む理由と目標は全く現在から未来を思考する民主的な営みに生まれ変わっているのである。

さて、都市へ集中した労働力あるいは外国人の労働力を取り入れ、地域の生活を前進させていくとすれば、そこには未来を描くシナリオがなければならない。未来を望む時にどのような危険が存在するだろう。それにどのように対処しながら、地域の人たちは生活し働いて行けば良いだろう。

そう言う未来を標榜する時に想定される問題やそれを克服するための課題を常に整理して共有することは、少数の人々が共に生きてゆき自分の主体性を発揮していくための重要な方法である。

シナリオプランニングと呼ばれる計画手法がそれである。“未来から見て、これからを計画”する手法であり、明るい将来あるいは問題にぶつかる将来などいくつかの可能性を描き、それぞれの地域の構成員が自分の人生に備えるのである。エンゲージメント向上を声高に言う前に、これからの明るい未来や衰退の可能性を共有理解する必要がある。そうすることで、都市から移住する人たちも地域の生活や労働に主体性が持てることになるのである。そしてそのことが、地域リーダーの活動を支援にもつながる。

### ●おわりに

観光振興は、かつての経験から、地域を活性化

するかもしれないと考えられがちである。しかし、今や地域の人口減少や産業の衰退の歯止めにはならない可能性が高い。それならば、地域の持続的可能性をしっかりと理解して社会を運営する必要がある。

以上見てきたように、人口減少の理由は多様に存在するし、しばらく止まりそうにない。しかし、我々は現実の営みをしっかりと見つめて、その方向（シナリオ）を創り出し共有て行くことが必要なのである。そこに、持続可能な未来を描くことができる。多くの経済先進国はそのようなパースペクティブを創り出し、それをベースに人々が主体的に歩んでいると言える。（むらかみ かずお）

## ひのさと48 地域に寄り添うコミュニティカフェ

山田 龍雄

昨年の11月18～20日に都市住宅学会全国大会が5年ぶりに福岡大学で開催されました。

九州支部では18日の見学会と19日のメインシンポジウムの企画、運営を担当し、実施しました。メインシンポジウムでは「郊外居住の新たな価値～日の里団地再生のセカンドステージ」というテーマで4名のパネリストにご登壇いただきました。各パネリストの方の話は、示唆に富み、改めて団地再生は地域のこれまでのコミュニティ活動等の取組み、人（内と外）、場、行政との連携が上手くマッチングすることが大切であることを学ばせてもらいました。当たり前の話ですが、ひのさと48（機関誌よかネット141号掲載）を核とした団地再生の取組みは、日の里団地であるからこそできたものであり、事例としては参考になりますが、郊外団地全てに当てはまるものではありません。郊外団地の再生では団地の資源（人、場、歴史等）を活用し、団地の特性にあった再生方をケースバイケースで考えるしかないと思います。

今回、ひのさと48の中で地域に寄り添い、子どもの居場所となっている[みどり to ゆかり日の里]を運営している吉武麻子さんの取組みについてご報告させていただきます。

## 【パネリスト】

- 吉田 啓助氏（東邦レオ㈱ ディレクター）  
～さとづくり 48 プロジェクトの概要と地域との繋がりについて～
- 吉武 麻子氏（一般社団法人 Grandjour 代表）  
～コミュニティカフェの1年間～
- 荒 昌史氏（HITOTOWA, INC 代表取締役）  
～{ネイバーフッドデザイン} まちを楽しみ、助け合う「暮らしのコミュニティ」のつくり方～
- 藤井 さやか氏（筑波大学システム情報系准教授）  
～ひのさとセカンドステージから学ぶ～

## 【司会】

- 池添 昌幸氏（福岡大学工学部 教授）

## 【コメンテーター】

- 柴田 健氏（大分大学理工学部 准教授）

## 【まとめ】

- 益田 信也氏（近畿大学産業理工学部 准教授）

## ●自分事の課題解決に対応した事業化に取り組む

パネリストの吉武さんと名刺交換したとき、「実は、よかネット（2001年6月名称変更、以前は九州地域計画研究所）さんでアルバイトしていたことがありましたよ。」と告げられました。

20 数年前の話であり、失礼ながら全く覚えていなく、面食らってしまいましたが、吉武さんは、結婚、出産を契機として育児サークルの立上げ、お子さんが食物アレルギーであったことからアレルギー対応焼き菓子屋（2008年）、その後、親子カフェ（2012年）、育児育自の会 Grandjour（2014年）、アレルギー対応焼き菓子専門メーカー「もぐもぐぽけっと」（2020年）と次々に自分ごとの困りごとを社会的な課題と捉え、解決するために組織化し、事業化に取り組まれてきています。そのバイタリティ溢れる実行力には驚かされます。

2021年に「さとづくり 48 プロジェクト」に参加され、ひのさと 48 の1階の一室にて、コミュニティカフェと子どもの居場所を運営されています。

## ●地域家族を増やす

吉武さんは、日の里団地という閉じられた団地空間ではあるが、地域の子もたちをはじめ多世代が、この場所で会話し、遊び、帰るときに「またここで会おうね」といって帰るといった緩

やかな関係をもった地域家族を増やしていくことを目指しています。

## ●誰もが歓迎される場所を目指すコミュニティカフェ「みどり to ゆかり日の里」

吉武さんは「美味しい料理を提供し、おしゃれな雰囲気を楽しんでいただくカフェ」というだけではなく、地域の方が気楽に立ち寄り地域の人々の会話の量を増やすことをミッションとしています。ここでは気ままに朝8時から夕方5時まで食事したり、おしゃべりしたりと開かれたみんなのお茶の間となることを目指し、取り組んできました。

吉武さんは、日常が楽しくなり、コミュニティを広げるための仕掛けとして、定期的に次のようなイベントを企画、実践されてきました。

- 誰もが自由に楽器を演奏し、音楽を楽しむ場「音楽の日」（第4日曜日）
- 家で眠っている物を無料で提供したい、販売したいといった緩やかなガレージセール（第3日曜日）
- 「推しを語る会」～自分の好きなこと推したいことについておしゃべりする会（月1回開催）
- 「介護について話し合う会」～この講座の繋がりからある高齢者施設の中庭に花を植えるボランティアのチームもできたそうです。（半年で6回の講座）
- 野菜の販売
- 自慢レシピを公表する会 等

## ●子供たちと話し合いでルールを決める

ひのさと 48 の真向かいには「日の里東小学校」があり、近隣には「日の里西小学校」もあり、合わせて600名の児童が通っています。

「みどり to ゆかり日の里」では駄菓子の販売もしていたこともあり、放課後や土曜・日曜には子供たちでお店が満杯になることも多々あって、他のお客さんにも迷惑かけるし、営業にも差し障りがでてくるようになったとのこと。

そこで吉武さんは、この難題を解決するため、一方的に大人がルールを決めて、従ってもらうという、上から下への伝え方ではなく、子どもたち自身に考えさせるという方法をとられました。それが「子どもカフェ会議」です。お店にも迷惑を



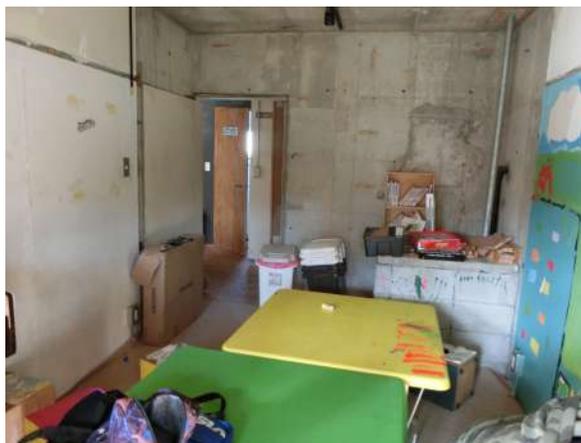
「コミュニティカフェ みどり to ゆかり日の里」の内部の様子

かけず、子どもたちも納得できるルールづくりは、学校や保護者との話し合いを含め、二転三転ありましたが、小学校6年生のメンバーが中心となって「学校の決まりも守り、保護者も安心して、さらにいじめにもつながらないルール」を考えました。（ルール作りの経緯は雑誌「住宅」2022年1月号に掲載されており、吉武さんの奮闘ぶりが良くわかります。）

- ①毎回「お店に入っているか」という許可を取るのは大変だから「みどり to ゆかり日の里」の入店パスポートを作って、保護者の許可をもらってきたら入店できるようにする。
- ②一日に使えるお金は小学生低学年300円、それ以上の学年も500円までとする。自分の食べる分だけを買うこと（おごりは禁止）
- ③学校から一度、家に帰ってランドセルを置いて16時からは「みどり to ゆかり日の里」で遊んで良いが、それまでは新しくできた「子どもカフェ（子どもたちが自由に過ごせる遊び場の名称、カフェという名前は付いているが、飲食販売等はなし）」で過ごすこと。

●子どもカフェを大切に使うためのルールづくりも子供たちで決める

子どもの居場所として、自由に遊び、過ごせる場ができたのは良いが、ゴミのポイ捨て、散らかして帰ってしまう子がいたり、またダンボールで秘密基地を作ってしまう、部屋がダンボールで占領された状況となったこともあったそうです。また、別の日にはペンキで床や壁に落書きをするなど、部屋を掃除できない、大切に使わないといっ



子どもたちがコミュニティカフェに入れない時間帯に過ごすフリースペース

た問題も発生しました。

このような時に小学校6年生の女子を中心に5人で、どうしたら部屋を大切に使うかを話し合い、その方法を考えています。

靴を脱いで部屋に入るようにし、床にカーペットを敷き、大きなゴミ箱を置いたところ、それ以来、これまでのような部屋が使用できなくなるような散らかしは無くなったそうです。

●子どもの居場所づくりは、人と場、当事者が考えるゆるやかなルールが大切

今回、吉武さんの活動や取り組みで、次のようなことを学ばせていただきました。

- ①地域で新たなコミュニティのための仕掛けを作りたいというミッションを抱き、それを実現するためには、吉武さんのように大人と子どもの間にたって調整するコーディネータ的な存在が必要であること。子どもたちの目線に合わせて話ができる吉武さんのような人が子供たちや人を引き寄せることになるのではないのでしょうか。
- ②ひのさと48は所有責任者は「西部ガス（株）」、運営管理責任者は「東邦レオ（株）」ですが、かなり柔軟な利用が許容されており、自由に利用できる場を提供しています。このように自由に活用できる場（スペース）があり、子供たちに一定の責任を持たせ、一定のルールのもとで使用を許容する仕組みがあることが重要です。私が住んでいる校区でも公民館だけではなく、ゆるやかなルールで、気楽に利用できる、サードプレイスの必要性を感じています。
- ③今回、子どもたちが考えたルールというのは大



既存のUR賃貸住宅をリノベーションした「ひのさと48」側面はボルダリングができるようになっている

人の頭からは出てこない発想です。子どもだから他の子どもの気持ちもわかり、納得させられるルールができたのではないかと思います。やはり、一方的に管理者だけでルールを決めるのではなく、問題を作っている当事者自身で考えてもらうことが大切です。当事者自身で考え、自分たちで作ったルールだからこそ、ルール守り、育てていくことにつながります。

#### ※都市住宅学会とは

従来、都市住宅・居住に関する研究は、建築学、住居学、都市計画・社会工学、法学、経済学、社会福祉学、社会学、心理学、政治学等さまざまな学術研究分野において行われ、多くの貴重な研究成果が蓄積されてきた。しかし残念ながら、それらの多くは個別分野の中だけの研究に留まっており、相互に交流し総合的・体系的な研究に高める努力は十分には行われてきたとは言いがたい。このように、学際的研究の進展がみられなかった大きな原因のひとつとして、各分野の都市住宅研究者が共通の問題意識のもとに結集する場としての学会がなかったことが挙げられる。

このため、都市住宅の立地、建設、流通、機能等、及びこれらをめぐる社会、経済、技術、文化の各領域における諸現象のメカニズムを実証的に把握する（実証科学）とともに、社会システムや居住空間等の望ましいあり方を研究する（規範科学）総合学としての「都市住宅学」を構築することを目的として、「都市住宅学会」を設立する。設立年度は1992年11月。九州支部は2003年4月に設立

（都市住宅学会HPより）



「ひのさと48」と一体的に開発された戸建て分譲地（64区画）、概ね7割は売れているとのこと

吉武さんは、今は「みどり to ゆかり日の里」の運営を離れ、「もぐもぐぼけっと」や他の社会貢献事業に専念していますが、機会があれば子供の居場所、多世代交流の場、地域家族の場づくりに係わっていききたいという思いがあります。

今後とも吉武さんの社会的課題に向け、エネルギーに取組まれる活動を見守っていききたいと思います。（やまだ たつお）

#### ※ひのさと48プロジェクト

宗像市の日の里団地の一角にあるURの賃貸住宅10棟を解体し、うち1棟（48号棟）をリノベーションし、日の里地域の生活利便、コミュニティの拠点をつくるプロジェクト。

住棟の妻側の壁には子供たちの要望に応じてボルダリングの装置が付けられている。

残りの住棟を解体した跡地には住宅メーカー8社により戸建て住宅団地（64区画）として開発されている。「ひのさと48」には、コミュニティカフェ、DIY工房、地ビール醸造所、シェアキッチン、ウクレレ製作工房、有機野菜生産・販売、未就学児発達障害支援施設などが多様なお店や施設が入店し、ゆるやかな多世代交流を生み出すとともに、住宅団地のブランドづくりにも貢献している。

（参考資料）

- ・月刊誌「住宅2021月号」（一般社団法人：日本住宅協会発行）
- ・機関誌よかネット 141号（2021年1月）

## 阿蘇を公共交通機関のみで楽しむ

酒見 知里

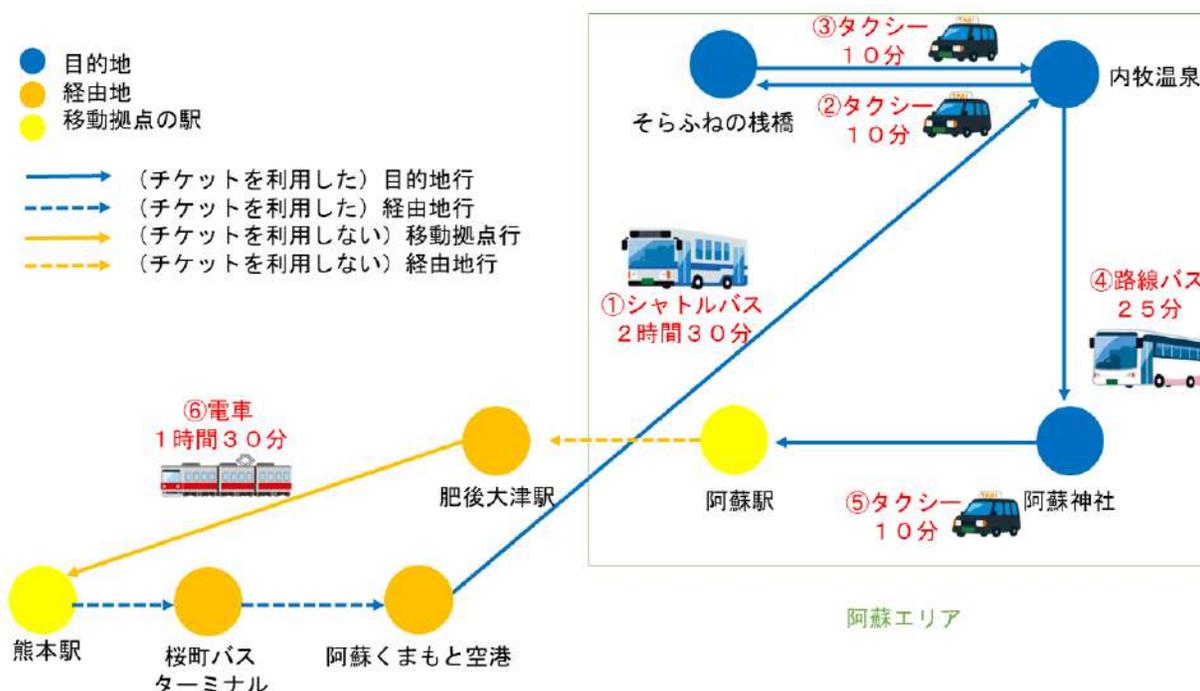
現在、当社は熊本型観光 MaaS 実証実験の調査・分析の業務を実施中です。昨年度に引き続き、熊本県を代表する観光地である阿蘇へ、車がなくても公共交通機関で行くことのできる新たな観光モデル構築の効果検証を行っています。11月13日(日)に、実証実験が行われた「車がなくてもお得に阿蘇 Be MaaS (あそべまーす)」を体験してきました。

具体的には、阿蘇地域を阿蘇市と南阿蘇のエリアにわけ、10月1日(土)～11月27日(日)の期間の土・日・月・祝日に実施されました。チケットを事前に購入するとサービスを受けることができます。チケットは、1DAYパスと2DAYパスから選ぶことができ、路線バスと周遊シャトルバス(実証実験期間中のみ運行)の乗り放題チケット、タクシーとレンタサイクルの割引チケットがついていました。また、一部の飲食や体験を割引する券も含まれていました。

昨年に行われた実証実験では、下記のような意見が挙げられていました。

- ・小国エリアの利用が非常に少ない

図：今回巡った行程と利用した交通機関



- ・関東、関西からの利用者が予想より多くいた
- ・阿蘇と南阿蘇のエリア間の移動手段がほしい  
これらを踏まえて、今年度は新たに「南阿蘇～阿蘇山上～阿蘇駅」や「大観峰」、飛行機利用者向けに「阿蘇くまもと空港」が臨時シャトルバスのルートに追加されました。

実証実験期間限定で出ている臨時シャトルバスで各エリアまでの移動を行います。私は博多駅から熊本駅まで新幹線で移動し、熊本駅発着のシャトルバスで阿蘇市内牧温泉まで向かいました。

### ●公共交通機関を使うよさ

今回、阿蘇市内を巡りました。

曇りときどき雨の空模様で景色を楽しむことが難しい天気でした。そのため、街歩きをメインとし、食べ歩きや温泉を楽しみました。

公共交通機関で阿蘇に行く利点として、2点あると思いました。

1点目はお酒が気兼ねなく飲めることです。今回の阿蘇観光で飲酒はしませんでした。が、運転を気にせずお酒が飲めることはお酒好きの方には大きなポイントになると思います。



JR 豊肥本線肥後大津行の鉄道



一の宮門前商店街の水基と街の情景



いまきん食堂のあか牛丼

2点目は運転を気にせず景色に集中して楽しむことができることです。阿蘇駅から熊本駅までの鉄道の車窓から、熊本地震の被害が大きかった旧東海大学阿蘇キャンパスの復興状況を見ることができました。肥後大津線はキャンパスより高い位置を走っているため、被害の全体を眺めることができ、まだ土砂崩れが残っている場所があることも確認することができました。また、スイッチバックを体験することができました。スイッチバックとは、立野駅と赤水駅の標高差が188mあるため、線路をジグザグに敷くことで標高差を克服するものです。進んでいた鉄道が途中で止まりバックし始めたときは驚きましたが、そのような体験ができることも鉄道ならではの体験でした。

### ●移動を快適にいくために

熊本駅から内牧温泉までの移動は、直接行くなれば1時間20分でいける距離ですが、今回は、桜町バスターミナル、阿蘇くまもと空港、阿蘇ファームランド、阿蘇カントリー・ドミニオン、阿蘇駅を経由したため、2時間20分を要しました。乗

車時間が伸び、バスでの移動は時間がかかるというマイナスな印象を持つ人もいたのではないかと思います。今後シャトルバスが継続して運行される場合は、熊本駅から経由する場所をより絞る、あるいは路線を複数パターン作るなど、再検討が必要と感じました。

私は、路線バスを調べるのが苦手で、今回もバスの場所検索や時刻表の見方などを全て同行者に任せてしまいました。バスに慣れていない人には、バスで市内を巡るハードルの高さは簡単には拭えないものですが、バス利用者の感覚を知るためにも、バスの利用方法を学ぶことは私の課題です。

### ●2つの街を見比べて

多様な交通モードを利用して初めて阿蘇市内を巡りましたが、1日楽しむことができました。

昼食のあか牛丼が有名な人気店、いまきん食堂の2時間もの待ち時間を楽しむために、近くにカフェや雑貨店が並んでいました。とあるカフェでは、お客のいまきん食堂の整理番号が近づいたら教えてもらえるなど、内牧温泉街ではいまきん食堂を中心とした仕組みができていました。一方、阿蘇神社近くの一の宮門前商店街は、水基（みずき）と桜並木とともに様々なお店が並びお店と風情をともに楽しむことができます。水基とは、阿蘇神社の参拝客を商店街に呼び込もうと住民が日頃使っている湧水を店先に引いて設置した水飲み場のことです。2つの町を訪問して、有名店が1軒あることで街全体が活気づく街づくりと、街全体を観光資源とする水基というしかけを活用して街づくりの違いを体感することができました。

(さけみ ちさと)

## 近況

## 見えないモノが大事

昨年6月に閣議決定された新しい資本主義のグランドデザインでは、成長のための「目詰まり」を解消するためにいろいろな政策が列挙されている。しかし、これまでの果実をどう分配するかの方法が主なようで、過去に政策として出されてきたものとあまり変わらない気がした。

分配の方法は重要で、それを成長の持続にどう活用するかは、立場や考え方、それぞれで異なると思う。しかし、まず国としてすべきことは、成長する基盤、時代に合ったシステムを作ることと思う。

## ●基礎研究の基盤

グランドデザインでは、大学の教育改革の中で研究大学を作るため10兆円の大学ファンドの支援、産業界の人材需要のための規制の見直し、理系女子の活躍支援などが掲げられており、権威主義的国家に負けないための処方箋のようである。これはこれで大事である。しかし、これだけで良いのだろうか。IMF（国際通貨基金）の2021年のブログに「基礎研究への公共投資は割に合う」という記事が出ていた。「応用研究がイノベーションを市場に送り出すうえで重要であるのに対し、基礎研究は画期的な科学の進歩に必要な知識基盤を拡大する」という記述が若干のデータと一緒に出ていた。このことは、近年のノーベル賞受賞の多くの学者や研究者が指摘していることであり、日本の学術研究の根幹的な問題である。

学研都市計画、知的基盤のテーマに関わり始めた1990年頃、日本の応用研究、技術開発に対して「基礎研究ただ乗り」という対日批判があった。この頃から基礎研究に対する政策投資、成果の予測できない研究への国の投資が盛んになった。その目標としてGDPに対する研究開発投資の国の比率を高めるものだった。今の防衛予算の拡大の考え方によく似ている。

知的基盤づくりが重要だという認識から、全国の地方自治体、経済界でも学術研究に対する公共投資への取組が認められようになる。最終的には雇

用開発などに繋がる産業施策としてだけでなく、大学の教育、研究に対する支援、産学連携、ベンチャー支援へと続いていく。

この間、基礎研究というよりは、長い時間の取り組みで生まれた基礎研究の果実を食べ続け、畝づくり、種まきを怠ってきた結果が、今の日本のような気がする。研究開発の投資、特に基礎研究が続けられるためには、無駄や遊びを楽しむ風土や文化が無ければ、継承する人も続けていくのは難しい。少なくとも、会社としては好奇心や無駄かもと思われる時間は必須のものとして認めるというよりも推奨したい。

## ●GDPで測れないモノ

インバウンドが再び復活しそうな勢いだが、世界の中で、日本はどんな国になっているのだろうか。国の豊かさを示す指標と言われる一人当たりのGDPの物差しでは、韓国が2020～2040年の間に日本を超えるという予測（OECD推計・1人当たり実質GDP（2010年購買力平価のドル評価）野口悠紀雄・一橋大学名誉教授作成）もされているように、日本の競争力が落ちていると言われる。グランドデザインは、まさにその対策である。

しかし、新型コロナ禍の以前から言われていたデジタル経済の進化がもたらしたモノが見えてきた。新型コロナ禍で新しい生活様式を経験したことで、はっきりと見えてきたと言われている。生産物としてのモノでは無く、お金にはならないが、人々にとっては良いこと、例えば、通勤時間が不要になり、余暇時間が増え、趣味の時間等、これまでと時間の使い方が変わった。あるいはSNSによる人との繋がりが、自身の不安な気持ちを安らげることができたなど、デジタルのおかげで得られた価値だが、直接的に計測することは困難なモノである。

しかし計測はできないが、得られた価値により、健康になったとか、仲間が増えたとか、仕事と生活のバランスが良くなったとか、いわゆる生活の質が高まったという評価はできると思う。

同時に個人情報リスクもあるが、これは表裏一体でリスクを下げる対策も不可欠である。

新興国や途上国では、豊かな生活を目指して、モノとしてのGDPを伸ばすことが最も重視され

ることは当然の事である。しかし、経済的な安定が得られる時は、デジタル化も同時に進んでいるはずである。

成長の結果を測る指標として、見えにくいモノ、生活の質とか人とのつながり、便利や安心とか、SDGsにも繋がる指標は、これからも目が離せない。(山辺 眞一)

### 俳句を楽しむ

7年前、ある飲み会に参加した折、俳句の話で盛り上がった。「山田さん、俳句に興味があるなら、我々が行っている俳句の会に入りませんか？」とのお誘いを受けた。高校時代に国語の時間に習った「高浜虚子」や「川東碧梧桐」などの俳句に感動した覚えがあるが、特別に興味があったわけではない。しかし、折角、お誘いを受けたからには、これも何かの縁と思い、軽い気持ちで参加することにした。

この俳句の会は、主宰者がいる俳句の会ではなく、「趣味の会、グループ」である。2014年に建築やランドスケープに従事している俳句好きの方々が、4～5名で始められたそうだ。今は8～10名の参加で実施している。

この会は、春夏秋冬、年4回、各個人が投句し、参加者同士で自分が優れていると思う、あるいは好きな俳句を選句する集まりである。

初めての参加は、2016年4月であった。桜が咲く春日公園の休憩施設のテーブルを囲んで、花見を兼ねて行われた。この会は各自が詠んだ俳句をお互いケチをつけあったり、誉めあったりしながら、自由闊達に評価するのである。この自由な雰囲気ハマリ、今でも、この会を楽しみにしている。

昨年からは1週間前に参加者の俳句をメールで配信し、事前に各自が評価する句に「◎」「○」をつけ、当日の会合で披露するようにしている。これによって事前に知らない言葉の意味を調べることができ、俳句に込められた思いを知ることができる。試行錯誤の末に、考えだされた評価方法ではあるが、メンバーからは高評価を得ているし、私自身も非常に良い方法であると思っている。

2年前に、この俳句の会に正式な名称をつけようということになり、メンバーにネーミングの募

集、意見交換を行い、「亞乃艸（あのくさ）の会」と命名した。「あのくさ」とは博多弁で「あのね！」という呼びかけの言葉であり、仲間と語り合うときの枕詞のような意味合いもあり、この会に相応しいネーミングである。

俳句を詠むとき、これまでの私の経験では、考えすぎて何度も推敲する俳句より、自然、時の流れ、世相などに心から感じ、素直な心根で詠んだ俳句の方が良いように思う。その時に17文字という短い言葉の中に“思い”を伝えようとすると、テクニックとして季語も含めて、多くの語彙の選択が求められる。俳句の会に入ったことにより、日本語の豊かさ、奥深さを改めて知ることができた。

地球温暖化等によって日本の四季のメリハリが次第に失われていく時代だからこそ、歳時記の言葉の大切さを痛感するとともに、守っていくべきものと思う。

私も、手前味噌になるが、これまで稚拙ながら詠んだ俳句は300句程度あるので、少し時間の余裕ができたなら、俳句集を作成したいと思っている。今から、その俳句集の題名を考えるのが楽しみである。(山田 龍雄)

### 地域資源を活かし域外から稼ぐご支援を

2011年以降毎年、ツイッターやインスタグラム、トリップアドバイザーといったSNS・口コミサイトに掲載されたコメント（特に外国人のコメント）を収集・分析する業務を粛々と続けていましたが、コロナ禍でそうした業務が激減し、2021年はゼロに。しかし、2023年はこうした業務が復活し、2つの県でSNS調査業務を実施する予定です。

これまでの分析手法を機械化し、高速でデータ集計ができるような設備投資も行い、準備を着々と進めています。

地域の観光事業者の方々に対して、どういった属性のインバウンドを誘客したいかを聞くような受入ニーズ調査も複数実施予定で、インバウンド関連の仕事が戻ってきつつあることに安堵しています。

また、コロナ禍で増加したのが、海外飲食店・小売店をターゲットとした農産物・食品の輸出ニ

ーズ調査でした。こちらは、海外在住のバイヤーや専門家と連携し、検疫や関税といった輸出のハードルや、味の嗜好を調査し、「海外のどの国・地域に、国内自治体のどの産品を出せるのか」を整理する業務です。政府が農産物・食品の輸出額を現在の1兆円から2030年に5兆円に伸ばすという高い目標を掲げるなか、輸出支援の仕事も継続してお手伝いすることができればと思っています。

円安は我々日本人にとって良いことばかりではありませんが、地域が域外から「外貨」を稼ぐ産業として、今年も観光関連の市場調査や計画策定業務、農水産物・食品の輸出可能性調査やテストマーケティング業務に注力していきたいと思っています。

毎年連携させていただいている先生方やパートナーの皆様、そして社内のチームとともに、まずは年度末の繁忙期を乗り越え、新たな種を蒔く一年にしていきたいと思っています。今年もよろしくお願いたします。(原 啓介)

### 健康が一番

1年経つのが年々早く感じます。

毎年、新年の抱負を書くわけですが、ここ数年は減量目標を掲げていました。見返してみると、80キロを切ることをめざしていたようです。本稿を書いている時点(令和4年11月)の体重は82キロ。昨年と変わっていません。この体重が丁度よいのかもしれませんが。これを維持することを第1として、あわよくば、70キロ台をめざすようにします。

さて、今年40歳になります。まだ40歳なのか、もう40歳なのか。人生100年時代と言われる中では、まだ40歳なのかかもしれません。とはいえ、80歳まで生きることを考えると、折り返しとなります。

最近、仕事もプライベートも新しいことにチャレンジしたいという想いだけが先行していて、形にはできていませんでした。「子どもが小さいからなあ」などと言って逃れることもありましたが、長男5歳、長女3歳となり、そういうことも言うておられません。家族との時間を確保しつつも形にしていきたいと思っています。

仕事の面では、知識の更新・レベルアップを図ります。当たり前のことなのですが、十分に出来ていないと思うこともあり、一番は、大学院等に通って学び直しをしたいのですが、時間とお金と要相談のところがあります。学び直す分野を明確にするためにも、読書量の増加と、地域に行く回数を増やします。まちづくりの仕事、やっぱり地域に行かないと課題や解決策は見えないですし、ひらめきません。

プライベートの面では、キャンプに行く。道具は揃っているのですが、後は実行するだけなのです。初夏を目安に第1弾をします。

今年一年も、体調に気をつけて走り抜けたいと思います。皆さまのご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。(山崎 裕行)

### オタ活ぼちぼち復活してます

航空オタ10年目に突入しました。約2年間コロナの影響で中止になっていた航空祭が昨年復活しました。航空祭は、航空自衛隊の基地における一般公開のイベントです。昨年は松島、芦屋、小松に行ってきました。

#### ●久々の航空祭

8月久々の松島基地航空祭。今回は人数に制限があり抽選での入場でしたが、友達が見事に当選してくれて中に入ることができました。あいにくの雨でほとんどの展示飛行は中止でしたが、午後少し晴れ間ができ、ブルーインパルスの展示飛行はありました。少しでしたが久々に垂直系の課目を見ることができ、航空祭が復活した事を実感しました。

9月は芦屋基地航空祭。夕方から用事があったので基地の中には入らず、海側の海浜公園から見ることになりました。朝から雲がありつつもブルーが飛ぶ時間に基地上空にあった雲がなくなり、青空の中での展示飛行は感動でした。

ブルーには前席と後席の2席あるのですが、この時の1番機から6番機まで前席のパイロットは全て福岡出身という奇跡のおまけ付きでした。

#### ●台風に振り回される

9月の17～19日の3連休は小松に行ってきました。こちらも抽選入場でしたが、友達が再び当選してくれました。19日が航空祭当日でしたが、

台風 14 号が近づいてきているという最悪の状況。

福岡を発つ時点では、飛行機の「運行の見通し」の影響が懸念される空港に福岡空港も小松空港も載っておらず、キャンセルをすればキャンセル料がかかる状態なのに、天気予報は 19 日午後小松に台風が近づく予報でした。

帰れないかもしれない…。

当初予約していた帰りの便は夜の最終便だったので、追加で 13 時台の便も予約することにしました。

さらに別の方法も検討することに。

案①飛行機で小松→羽田→福岡

案②飛行機で小松→羽田、翌日朝一の便で羽田→福岡で、そのまま出社

案③ JR で小松→京都、翌日朝一の新幹線で京都→博多で、そのまま出社

案④高速バスで小松→名古屋、セントレア空港まで移動し名古屋→福岡

と、いくつか帰る方法を考え小松へ出発しました。この時は 19 日に小松を離れられさえすれば帰ってくるができると思っていました。

ところが台風が速度が遅く、19 日午前福岡に近づくという状況になり、小松に着いた後で飛行機の「運行の見通し」に 19 日午前の福岡空港が載ってしまい、もう小松に来ちゃったんですけど… という状態に。

福岡空港に着陸できる可能性は、当初予約していた夜の便の方が高かったのですが、前日 18 日の午前中に欠航が決まり、残す予約は 13 時台の便のみ。しかし、昼の便が福岡に着陸できるとは到底思えませんでした。

そこで急遽、案⑤航空祭は諦め 18 日に JR で行けるだけ西へ行きその後のことは電車の中で考えるという案を追加しました。

18 日午後は航空祭の予行があり、小松空港で予行を見ていたので、途中で航空会社の窓口へ行き「19 日昼の便は福岡空港に降りられると思いますか？」と聞いたら苦笑いで首を傾げられたので、案⑤を採用することにして、予行終了後泣く泣く帰路につきました。その日はまだ新幹線が動いていたので博多まで帰ってくる事ができましたが、せっかく当選していたのに航空祭当日は



垂直系で一番好きな課目、ワイドトゥデルタループ。左のように飛んできてそこからぐいーんと上に登って右のように下りてきます

参加できなくなり残念でした。結局 19 日の小松から福岡への飛行機はすべて欠航となり、結果からいうと、空席があったかは分かりませんが、案①と案②なら帰ってくる事ができたようでした。

#### ●海の方も復活

10 月には沖縄にダイビングに行きました。久しぶりだったので 1 本潜ってあとはシュノーケルに申し込んでいました。

いざ 1 本目潜ろうとすると、3 年ぶり 3 度目のビビリ発動。1 本目はキャンセルして、追加を申し込み 2 本目はなんとか潜ることができました。沖縄の海は相変わらず綺麗でした。

だいぶ以前のように遊びに行けるようになってきたので、感染対策をしっかりしつつ今年にはたくさん遊びに行きたいと思います。

今年もよろしくお願いします。

(佐伯 明日香)

#### 📌可視化のススメ

かれこれ学生時代を含めて 10 年以上 GIS (地理情報システム) を触っています。学生時代は Esri 社の ArcGIS を、入社してからは QGIS を中心に、かなりの頻度で地図と睨めっこしています。

さて、この GIS に欠かせないのが、その元となるデータです。データはもちろん自分で調査して作ることも多いのですが、公開されているものや販売されているものを使うことも多くあります。

私が学生だった 2010 年頃を振り返れば、まだまだ公開されているデータも多くはなかったように記憶していますが、いわゆるビッグデータ、オ

オープンデータという言葉が聞き馴染むにつれて、官民間問わず多種多様なデータが提供されるようになってきています。

ちなみにオープンデータに関する国の動きについては、東日本大震災を契機に、データの公開・活用に対する検討が進み、平成29年5月30日に高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部が「オープンデータ基本方針」を公表していますので、やはり、ここ10年くらいで急速な広がりを見せたものと思われまます。

こうして国が主導でオープンデータ化を推し進めていることもあり、市町村のHPでもオープンデータのページを見かけることが多くなりました。ところが、人口だけという場合や、最終更新が数年前というケースも多々見受けられます。

おそらくこの辺りは自治体の人員や予算に大きく制約される場所でもあり、とりあえずページは作ってみたけれど、続かないというのが実情ではないでしょうか。特に、情報流通のスピードがほぼリアルタイムになりつつある昨今においては、殊更情報の鮮度が求められますし、情報の規格化というのにも必要だと感じます。ちなみにe-Statでは令和2年12月18日に「統計表における機会判読可能なデータの表記方法の統一ルールの策定」が報道発表されており、令和3年1月以降の公表分から順次対応していくこととされています。

まだまだ、発展途上なところもあるのですが、これだけの情報が簡単に無償で手に入るというのは非常にありがたい時代になったなと思います。だからこそ、「いまこそGISはじめてみませんか」と個人的には思っています。

これだけ有益有用な情報が溢れていますが、なかなか数字の羅列だけではイメージがつかないこともありますし、住所だけでは、それってどこ? となってしまう。これを地図に落とし込むだけでも見えてくるものはありますし、GISの特徴でもある情報の重ね合わせをすることで、新しく見えてくるものもあります。意外ととっつきづらいように思われていますが、基本的なポイントを何点か抑えてしまえば、あとは特に難しいこともなく使えるのではとも思います（もちろん、ハマれ

ば沼ですが）

さて、今回この話を書こうと思ったきっかけの記事をご紹介します。きっかけはnoteで公開されていた「ガラケーしか使えないデジタル音痴だった私が「GISでデータ分析」できるようになるまでの話」([https://note.com/nhk\\_syuzai/n/n96fdcdf4200d](https://note.com/nhk_syuzai/n/n96fdcdf4200d))でした。

こちらはNHKの記者の方が、全くのゼロからGISを使ってデータ分析をして取材までを行ったものです。割とリアルにステップアップの様子が描写されており読み物としても面白いですし、関連記事にマニュアル的な解説もありオススメです。実際記事には800近いスキが付いていて関心の高さが伺えます。

新年の事始め、何をやるかを探している方は可視化オススメです。

追記：書き終わって、改めて過去の機関誌を見直すと昨年の豊富でもGISのことを書いていることに気が付きました。（櫻井 恵介）

## 新しい年のささやかな目標

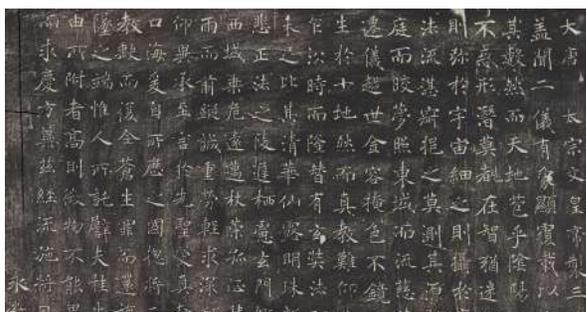
あまりにもささやかすぎる目標ですが、新しい年には中国ドラマ「武則天」全82話を最後まで視聴します！確か20話くらいまで見たのですが、朝廷ドラマらしく権力闘争が繰り広げられ、その挙句の当然すぎる結果として登場人物が簡単に退場し、毎話のシナリオが似通っている気がして根気が持たなくなったのと、私が大きな取り扱いを期待している人物が完全にチョイ役扱いというところに「そうじゃないんじゃないか」などと文句をつぶやくことに疲れ、ギブアップしました。

## ●ドラマの舞台は

ドラマの舞台は中国唐王朝第2代皇帝太宗（たいそう）の朝廷です。主人公は則天武后という名でも知られる女性で、太宗の後宮に入り、後にその子の高宗の皇后となり、武周朝をうちたてました。中国三大悪女のひとり、と称されることもあります。

## ●褚遂良をクローズアップしてほしい

私が期待するのは、太宗の重臣の一人である褚遂良（ちよすいりょう）のクローズアップです。褚遂良先生は、私が通う書道教室でのお稽古で、現在お手本にしている「雁塔聖教序」（がんと



「雁塔聖教序」(拓本)  
国立文化財機構所蔵品統合検索システムに掲載の画像を加工

しょうぎょうじょ)を書いた人物です。大好きな字を書いた人だけに、たいそう魅力的な人物であったと期待したいところですが、ドラマでは一人の人間としての個性を感じさせる扱いは全くなされていません。「頭の固いおじさん」です(あくまでも20話あたりまでの記憶による)。

### ●唐の皇帝太宗という人

唐の皇帝太宗は、中国史上屈指の名君と称えられるとともに、自身も能書家として知られ、素晴らしい書を残しています。また、先人の残した優れた書に対する執着も大変強く、書聖王羲之(おうぎし)の作品を数多く収集しました。特に有名なエピソードは書道史上知らぬ者はない名作である「蘭亭序(らんていじょ)」を、保持していた子孫からだまし取ったというもの。また、集めるだけではなく、亡くなる時にはコレクションを陵墓に副葬させたとされています。しかし、現在私たちは王羲之の蘭亭序をお手本として臨書を行っています。陵墓に収められたはずの蘭亭序をお手本とできるのは、太宗皇帝がこの蘭亭序の臨書・複製を数多く作成させていたからです。

そのような人が、やはり優れた書家でもある廷臣・褚遂良の書をどのように見ていたのか、このような部分もドラマに反映して頂ければ楽しいのではないかと思います。もしかすると私が知らないだけで、この先で取り上げられているかもしれないです(たぶんないとは思いますが)、また、武則天と褚遂良の間では、武則天の立后をめぐる政治的な対立が多くなるはずなので、自然と露出が増えエピソードが多く披露されることを期待しながら、がんばります！ (福吉 聡子)

### ●もっとアクティブな1年に

昨年は例年より寒くなるのが遅く、気づくと年末になっていました。福岡に来て約2年があつという間に過ぎました。色々な自治体と仕事をする中で、九州出身(大分市育ち)の身ではありますが、その地域について知らないことが多いことを日々実感しています。

特に、観光分野の業務において、最近人気の観光スポットや飲食店について知らないことも多く、地元のことでも分からないことが多いです。SNSなどで挙がる情報を注意深くチェックし、実際に訪問して体験するとともに、その地域の歴史などルーツにまつわる場所なども訪問し知見を深めていきたいと思ひます。

仕事面においては、昨年からは環境分野の仕事でネットワーク会社である(株)地域計画建築研究所(アルパック)と連携して行っています。環境分野は学生時代から興味のある分野でしたので、業務を通じて色々なことを吸収していければと思ひます。

プライベートについては、今年は趣味の幅を広げていきたいと思ひます。

スポーツ観戦が趣味ですが、新型コロナウイルスの影響もあり、現地で観戦する機会が減っていたので、今年は現地に足を運びたいと思ひます。普段、Jリーグの試合を観る機会が多いので、今年は10ヵ所程度スタジアムを周りたいたと思ひます。

また、健康面については、健康診断の際に運動不足という指摘がありましたが、なかなか実行に移せていないのが現状です。先日、友人からマラソン大会の参加を誘われたので、それを目標に体づくりをしていきたいです。中学校～高校の6年間、陸上部に所属し、長距離を専門にしていたが、それ以降しっかりと練習することがなかったため、基礎的な練習から徐々に再開したいと思ひます。まずは、高校時代のジョギングのペースであった5分/kmで10km走ることを目標にトレーニングしていきたいです。

今年も新たに学ぶこと、挑戦することが多くあると思ひますので、日々精進していきたいと思ひます。また、周りの状況をみながら行動できるように努めたいです。至らぬ点は多々ありますが、

皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。  
(益戸 亮平)

**趣味の幅も視点の幅も広げる**

愛知県から引っ越して4カ月ほどが経ちました。短い期間ですが、仕事とプライベートで様々な場所を訪れ、新たな体験を得ることができました。

初体験のこととして、海釣りが挙げられます。

実家が岐阜県寄りのため、海が遠く社会人になるまでは片手で数えられるほどしか海を見る機会がありませんでした。そして、釣りも長野県の湖でワカサギ釣りをしたくらいで、餌を使った本格的な釣りは経験がなく、難しそうなイメージがありました。

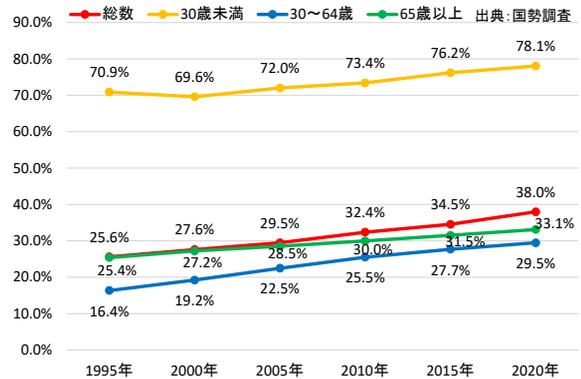
福岡県新宮市の港で釣りを始めてみると釣れない時間は長いですが、暇な時間だとは思わず、魚がハりに触れる感覚を研ぎ澄まして待つ時間もドキドキして面白いです。成果としては、メジナを1匹釣ることができました。

今まで自分で狩りをして食材を得る経験が少なく、海の魚がどのようにして私たちの食卓にくるのか、海と魚と人との繋がりを体感することがなかったです。知識では知っていても、目の前の魚の背景を考えることは普段は難しいです。しかし、仕事も同じですが、解像度を上げて繋がりを再認識するとものごとを見る目線が変わり、新たな気づきが生まれます。今回の釣りでも、海で魚が釣れた経験は、すぐ近くにいる生き物の命を食べている尊さを感じるとともに数多い釣り人に氷を売る商売ができるのではないかなど、様々な角度から考えさせられました。

ゆえに大枠や全体の把握力を上げるため、今年の1年は「繋がり」を意識して行動していきます。注力して学んでいきたい観光分野でも、医療や教育などほかの分野と繋がっていることが多く、幅広い繋がりから理解が追いつかない部分もありますが、広い目線で繋がり意識して学ぶことで全体像の絵を自分の中に持ち、仕事に取り組んでいきます。また、コンサルタントとして必要な考え方の土台づくりも行っていきます。

(酒見 知里)

表紙解説



図：一般世帯全体のうち単身世帯が占める割合

国勢調査によると、単身世帯の割合は2005年から2020年の15年間で12.4ポイント増加した。30歳未満の単身世帯は78.1%と他の年代よりも高く、15年間で約10ポイント増加した。

「孤独」や「寂しさ」というイメージの「お一人様」が、2010年以降、「孤独のグルメ」の放送等、一人の時間を楽しむというイメージに変わりつつある。2018年にぐるなびが実施した「ひとり飯に関する調査」では、ひとり飯の経験がある人は全体の85.4%、そのうち46.7%が率先してひとり飯を選択しており、一人の時間を取って楽しむ人が増えている。

2020年には「ソロキャンプ」が流行語大賞にノミネートされ話題になった。最近では、飲食に限らず、カラオケやジム、テーマパークなど幅広い業界で、お一人様向けサービスが展開されている。今後の動向についても注目していきたい。

よかネット No. 149 2023.1

(編集・発行)

(株)よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号  
福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

http://www.yokanet.com

mail:info@yokanet.com

(ネットワーク会社)

(株)地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6205-3600

東京事務所 TEL 03-5244-5132

名古屋事務所 TEL 052-462-1030